

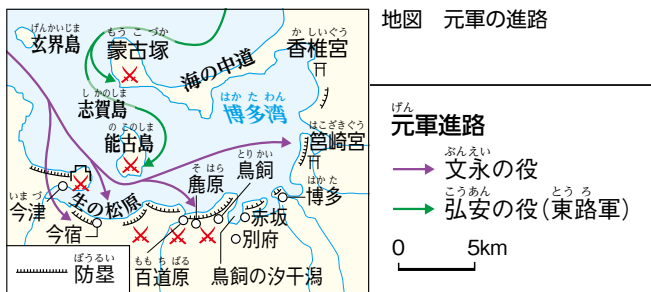
# とりかいのしおひ がた さきがけ 鳥飼汐干潟の先懸

## 『蒙古襲来絵詞』の改竄

金沢大学 教授 黒田 智

### ドキュメント10・20

文永11年（1274）10月3日、モンゴル帝国の大軍兵を乗せた船団が朝鮮半島を発した。5日に対馬、14日には杵岐を蹂躪。17日までに肥前平戸・鷹島周辺に侵入、19日に博多湾への侵攻を開始した。翌20日、蒙古軍が赤坂に上陸したとの報をうけて、わずか5騎の少勢であった肥後国（熊本県）の御家人竹崎季長は、箱崎から宮前の松並木を進軍し、博多息の浜で大將武藤景資から先懸（他にさきがけて敵陣に攻めこむこと）を認められる。さらに住吉社にいたって、すでに菊池



武房勢が赤坂の敵陣を攻撃し、蒙古軍は鹿原と別府方面へ退却したことを知る。季長はなおも蒙古軍を追って、鳥飼干潟の塩屋の松付近で激戦をくり広げた（下図）。苦戦する季長は、後方から来た白石通泰の援軍によってかろうじて窮地を脱した。

近年、蒙古合戦のイメージは大きく変化しつつある。従来、一騎打ちを原則とする日本軍は、炸裂する「てつほう」によって馬の制御もままならず、太鼓や銅鑼を駆使した蒙古軍の集団戦法の前になすすべなく討死し、退却を余儀なくされたと考えられてきた。しかし、干潟のぬかるみに誘いこむ蒙古軍に対して、日本軍が菊池勢の撃退につづく竹崎勢の突破、白石勢の追撃と波状攻撃をしかけて次々と蒙古軍を撃破していった戦況が読みとれる。

### 複雑な伝来

『蒙古襲来絵詞』は、竹崎季長が蒙古襲来における軍功を承認され、鎌倉幕府から恩賞を与えられた顛末を描いた絵巻物である。近世には熊本の矢野家に伝存し、寛政5年（1793）以降に40点近い大量の模写が行なわれ、原本の復元考証が進められた。700年以上前に制作されたこの絵巻は、数多くの欠失や錯簡、加筆がくり返され、相当複雑な伝来過程をたどったと





## 何が描かれたのか

〔詞四〕は実際の戦闘場面、〔詞七〕はのちに季長が安達泰盛に報告した内容を記したものである。恩賞をもとめる季長の訴えは、実際の戦闘と微妙な異同もっている。すなわち、「合わせて」(A<sup>1</sup>)を「先をして」(A<sup>2</sup>)に変更して先懸が強調され、痛手を負った「季長以下」(B<sup>1</sup>)に「三井三郎・若党」(B<sup>2</sup>)が追記される。加えて、季長の騎乗していた馬が射られたのは、三人が痛手を受ける前に配置されている(C<sup>1</sup>・C<sup>2</sup>)。〔画中墨書〕の擦り消し部分をもても、まず季長が左膝に一矢を受けた(B<sup>3</sup>)のちに、馬の左腹にも射られた(C<sup>3</sup>)ように読める。当初、描かれたのはこうした経緯であり、後脚をあげて跳ね狂う定型の馬図は、「てつはう」にではなく、腹部に受けた矢疵の痛みに愕いたからであろう。それにしても季長は、膝と馬に矢疵を受けたにすぎない。下肢部の戦傷は、14世紀の手負注文（合戦時の負傷者の状況を記した文書）でも全体の40%余を占めて、特段の軍功とは認めがたい。この場面における改竄の一部は、季長がみずから先懸の戦功を強調するために激戦の様子を粉飾したものととも推測される理由である。

〈参考文献〉太田彩編著、東京国立博物館ほか監修『絵巻＝蒙古襲来絵詞』（日本の美術414）至文堂 2000年 など

〔詞四〕 鳥飼瀉の塩屋の松のもと  
 に向け①合八せて合戦す。一番  
 に旗指馬を射られて跳ね落とさる。  
 ①季長以下三騎痛手負ひ、②  
 馬射られて跳ねしところに、(後略)  
 〔詞七〕 鳥飼の汐干瀉に馳せ向か  
 ひ候て、③先をし候て合戦をい  
 たし、旗指の馬、同じき④乗馬  
 を射殺され、⑤季長・三井三郎・  
 若党一人、三騎痛手を被り、(後略)  
 〔画中墨書〕 肥後国竹崎五郎兵衛  
 季長ノ生年二十九日⑥日⑦射  
 膝⑧射⑨馬

史料 詞書と画中墨書（□ □分は、擦り消しにより判読不明）  
 漢字・句読点の補足、傍線・記号は筆者による

考えられている。下図の場面を例にみても、①紙継ぎ目に描かれた三名の蒙古兵は別筆で、②馬上の季長も当初の墨線を確認できないほど厚塗りされている。③右方の松樹は馬脚や太刀の上に彩色され、④季長の頭上を飛ぶ投槍も剥落した緑青の上の後筆である。⑤右紙に描かれた矢は左紙のそれよりも太く、後筆である。⑥「てつはう」もまた、位置や色味から後筆である可能性が指摘されている。⑦季長の上の画中墨書は一行半にわたって擦り消しがある。これほど手が加えられているとなると、この場面の読み解きは一筋縄ではいくまい。そこで詞書と画中墨書（史料）をみてみよう。



『蒙古襲来絵詞』前巻 絵七（第24・23紙） 宮内庁三の丸尚蔵館所蔵